日本特撮アーカイブ

森ビル株式会社

概要/課題

日本特撮アーカイブは、特撮に関する中間制作物の保管・保全を第一の目的としている。 中でもミニチュアなど一次資料となる現品は、適切な環境で永続的に保存していかなければならない。また、それらの展示・講演会・ワークショップ・上映会などを通して特撮の魅力を後世に 伝えることで、特撮文化の継承に繋げていくことを目指している。

体制

事務局

指導/助言

森ビル株式会社

担当:都市開発事業部計画企画部計画推進部メディア企画グループ

委託

方針検討、作業指示、助言、検査など

特定非営利活動法人アニメ特撮アーカイブ機構(ATAC)

担当:三好 寛(ATAC事務局長)、馬場裕也(ATAC研究員) 庵野秀明(ATAC理事長/監督/プロデューサー)、氷川竜介(ATAC副理事長/ アニメ特撮研究家/明治大学大学院特任教授)、樋口真嗣(ATAC副理事長/ 監督/特技監督)、三池敏夫(ATAC理事/株式会社特撮研究所/特撮美術監督 /大阪芸術大学 客員教授)、尾上克郎(株式会社特撮研究所専務取締役/特 撮監督)、西村祐次(有限会社M1号代表取締役)、原口智生(監督/特技 監督/ミニチュア修復師)

作業指示相談/確認

指導/助言

資料調査/スキャン/データ試験公開協力

監修/指導 /助言

須賀川特撮アーカイブセンター(須賀川市文化振興課)

資料スキャン/データ調整等 ※令和6年度事業実施時

監修/指導 7 /助言



TOPPAN株式会社

成果

2015~2018年度: ミニチュア類の保存に向けた修復・復元

長期保存、展示等のためにミニチュアの修復・復元を実施。2016~2018年にかけては円谷英二特技監督の最後の長編作品となった映画『日本海大海戦』で使用された全長約6mの戦艦三笠の修復・復元を実施。

2019年度:「須賀川特撮アーカイブセンター」開館に向けた収蔵品のリスト化 須賀川特撮アーカイブセンターで保管される特撮作品に使われたミニチュア・立体 造形物・背景画など多岐にわたる品々について、円滑な施設開館に向けて収蔵品の リスト化作業を実施。

2020 ~2021年度:劣化が避けられない造形物のデジタルデータ化

現物保管が困難と言われてきた着ぐるみなどのラテックス(ゴム)製造形物や大型中間制作物の3Dデジタルアーカイブを試行。

2022~2023年度:特撮美術監督・特撮監督の現場資料のデジタルアーカイブ 東宝の特撮専門の美術監督として活躍した渡辺明氏、1970~80年代の東宝大作路 線で活躍した中野昭慶氏、東映の映画/テレビ作品で活躍し、特撮研究所を設立し た矢島信男氏らの遺した現場記録写真や直筆絵コンテ等の資料調査・整理・デジタ ルアーカイブ(2Dスキャン/データ化)を実施。

2024年度:背景画家 島倉二千六氏の背景画の調査研究・デジタルアーカイブ 背景画の専門家であり「雲の神様」と称される島倉二千六氏の描く背景画の調査研究と高解像度デジタルアーカイブ (2Dスキャン/データ化)を実施。須賀川特撮

https://s-tokusatsu.jp/archive/



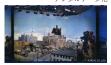
ミニチュア類の保存に向けた 修復・復元

1984 197

「須賀川特撮アーカイブセンター」 開館に向けた収蔵品のリスト化



劣化が避けられない造形物の デジタルデータ化



渡辺明氏撮影の記録資料の 2Dスキャン/データ化



島倉二千六氏の背景画の 2Dスキャン/データ化

【残された課題】

現在も数多くの特撮中間制作物の廃棄/散逸が続いており、保存されていても保管場所の維持や継続が困難なケースも各所で見られる。文化財産としての特撮中間制作物の保管・保全を今後も継続的に進めていくことはもちろん、アーカイブを担う人材の育成も課題である。

【公開方法/文化的・社会的・経済的な意義】

アーカイブセンターHPで成果レポートを公開中。

須賀川特撮アーカイブセンターにおける特撮関連中間制作物等の公開ならびに講演会・ワークショップ等を実施。各種展覧会等への展示協力、須賀川特撮アーカイブセンターHPでの実施レポートの掲載も併せて行い、それらの活動を通して特撮文化の普及啓発を行っている。

